

# 広島二葉の里プロジェクト

Hiroshima Futabanosato Project

No. 21-019-2018作成  
新築  
飲食/物販/事務所/ホテル

発注者	大和ハウス工業株式会社	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO2技術	C. 各種制度活用	D. 評価技術/FB
基本設計・監修	株式会社安井建築設計事務所	E. リニューアル	F. 長寿命化	G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携	
実施設計・監理	株式会社フジタ広島支店一級建築士事務所 FUJITA Corporation	I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性	K. その他		
施工	株式会社フジタ広島支店					

## 二葉山の豊かな自然に呼応するビジネス拠点

広島二葉の里プロジェクトは、「広島の陸の玄関口」であるJR広島駅新幹線口に位置し、「ひろしまを発信する賑わいのある街づくり」をコンセプトとして開発された街区を構成する建物の1つである。

求められる都市機能を集約するほか、各々の敷地を活用して、南北を繋ぐ歩行者ネットワーク「(仮称)二葉の里通り」を整備し、賑わいの創出を目指している。

### 建物概要

本建物は、地下2階地上20階の超高層ビルである。1、2階は商業用途でさまざまなニーズに応える店舗が入居、3~11階がオフィス、13~20階がホテル、地下1・2階は駐車場となっている。

### まちなみ、景観との調和

外観は、まちなみとの調和を図るため、足元商業フロア、低層オフィスフロア、高層ホテルフロアの3層に分節したデザインとした。商業フロアはまちなみに賑わいを生み出す、路面店形式とし、歩行者を意識した変化のあるデザイン、オフィスフロアは先進性の表現と圧迫感の軽減のため、ガラスを主体としたすっきりとしたデザイン、高層部はシンボル性をもたせるため、面と線を強調したソリッド感のあるシャープなファサードで構成した。



外観



(仮称)二葉の里通り

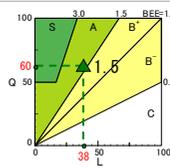


配置図

所在地	広島県広島市
竣工年	2019年
敷地面積	6,339㎡
延床面積	49,749㎡
構造	RC造、SRC造、S造(CFT)
階数	地下2階、地上20階

省エネルギー性能	
PAL削減	1%
ERR(CASBEE準拠)	24%
LCCO2削減	80%

CASBEE評価	Aランク
BEE=1.5	
2014年度版自治体提出	



### まちと環境に配慮した外構計画

建物周辺には広いオープンスペースを計画し、緑の歩行者ネットワークを形成している。街区の中央には、賑わいの場として、「(仮称)二葉の里通り」を整備し、イベント時には、建物との一体利用もできるように計画している。

外構計画については、環境に配慮し、地域に自生する樹種の積極的な採用、透水性舗装の採用、雨水貯留槽の設置などを行った。敷地北側には、バスターミナルを設置し、交通結節点としての機能強化と、CO2削減に貢献する。

### フレキシビリティの高い基準階計画

オフィスフロアは広島市内最大規模の、1フロア約658坪(2175㎡)の、奥行約15m、天井高さ2.8mの無柱空間となっている。天井は600mm角グリッドシステム天井の採用により、フレキシビリティの高いオフィス環境としたほか、高層階には、テナントの専用階段を設置することが可能な計画とした。

また、本建物は、防災性能を確保する上で、国土交通大臣の認定を受ける性能設計(ルートC)を採用し、避難安全検証及び耐火性能検証を行っている。性能設計により、防災上の安全性を確保しつつ、オフィスフロアの排煙設備をなくす等、対応性、更新性の向上を図っている。

### 耐久性・信頼性

建物形状に合わせ最も有効な制震部材を選択し、バランスよく配置した。

1階~11階の商業・オフィス階は中央の共用部まわりに制震ブレース(座屈拘束ブレース)を各方向に設置。内部に低降伏点鋼管を用いた二重鋼管ブレースで、地震時の繰り返し荷重を受けても耐力低下することなく安定してエネルギーを吸収し、建物の揺れを最小限に抑える。

13階~20階のホテル階には、小さな揺れにも効果のあるオイルダンパーと、制震間柱を採用した。

BCP対策としては、非常用発電機による72時間の電力供給のほか、テナント用発電機スペースを計画した。

### 省エネルギーへの取組

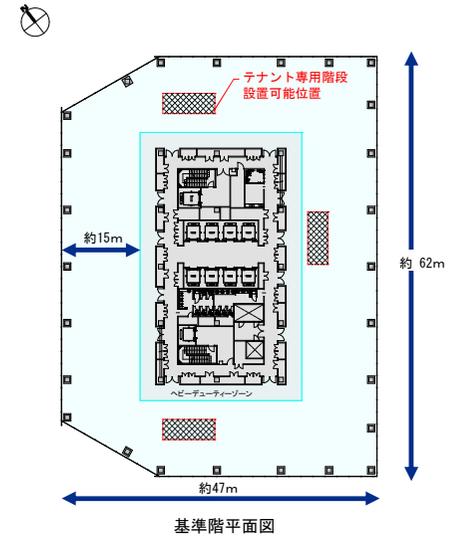
Low-e複層ガラス、LED照明、節水トイレ、高効率空調設備、昼光センサー、BEMS等の採用により、建物の省エネルギー化を図った。

### 実施設計担当者

統括：片田勝/建築：永田啓明、藤井真弓、下田聖二、三浦香代/構造：松尾世浩  
(設備/ダイダイン株式会社大坂本社一級建築士事務所)

### 主要な採用技術(CASBEE準拠)

- Q2. 2. 耐用性・信頼性(制震オイルダンパー、座屈拘束ブレース)
- Q2. 3. 対応性・更新性(空間のゆとり、バックアップスペースの確保、システム天井)
- Q3. 2. まちなみ・景観への配慮(街並みとの調和)
- LR1. 3. 設備システムの高効率化(LED照明)
- LR3. 1. 地球温暖化への配慮(LCCO2削減)
- LR3. 2. 地域環境への配慮(附置義務台数を満たす駐輪場、駐車場の確保)

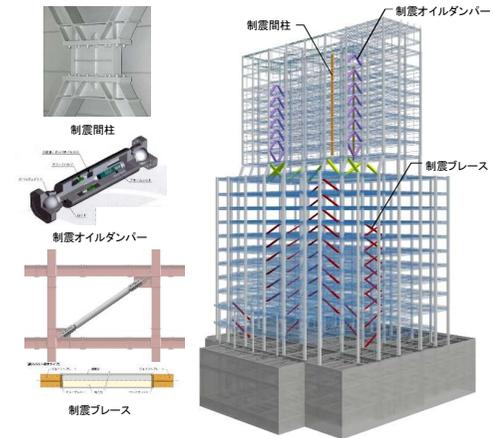


基準階平面図



エントランスホール

基準階事務室



構造システム